

漁況情報 No.15

平成 18 年 10 月 3 日発行

岩手県水産技術センター 漁業資源部

Tel : 0193-26-7915、Fax : 0193-26-7920、E-mail : CE0012@pref.iwate.jp

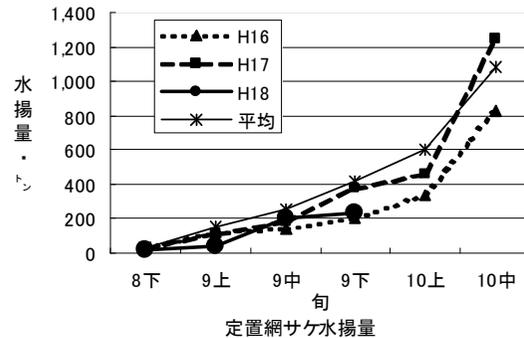
* 本報は当センターホームページ (<http://www.pref.iwate.jp/hp5507/>) に掲載しています。

<< トピックス >>

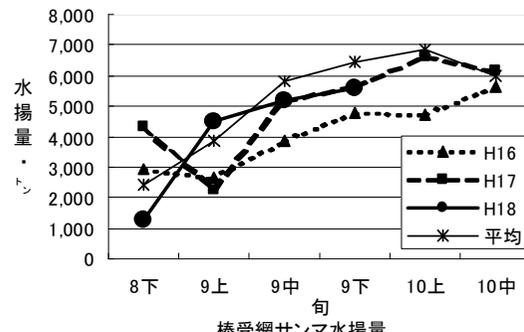
アキサケ(定置網)の水揚げは前年の6割程度です。
サンマ(棒受網)はほぼ前年並で推移しています。
スルメイカ(いか釣り)は低調に推移しています。

1. 水揚げ状況

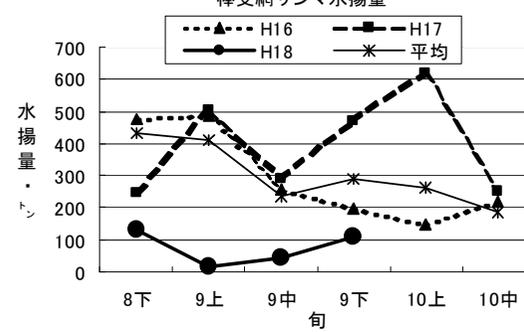
(1) アキサケ(定置網)は久慈を中心に水揚げがありました。9月下旬の水揚げ量は236トン(前年の62%)、年累計は505トン(前年の71%)でした。また、9月下旬の過去5年間の平均水揚げ量は419トンで、旬水揚げはその57%でした。



(2) サンマ(棒受網)は宮古、大船渡を中心に水揚げがありました。9月下旬の水揚げ量は5,610トン(前年とほぼ同じ)、年累計は16,513トン(前年の90%)でした。また、9月下旬の過去5年間の平均水揚げ量は6,426トンで、旬水揚げはその87%でした。



(3) スルメイカ(いか釣り)は大船渡を中心に水揚げがありました。9月下旬の水揚げ量は108トン(前年の23%)、年累計は679トン(前年の31%)でした。また、9月下旬の過去5年間の平均水揚げ量は289トンで、旬水揚げはその37%でした。



* 水揚げ状況は主要6港(久慈、宮古、山田、大槌、釜石、大船渡)の集計です。

2. 調査結果、その他の情報

(1) サバ類精密測定結果

9月下旬に水揚げされたサバ類(釜石魚市場、定置網)の精密測定を行いました。

体長の主体は32~35cmであり、9月上旬より1cm程度、8月下旬より1~2cm程度大きくなっていました(図1)。本県で水揚げされるサバ類には、マサバとゴマサバがありますが、両種は体長(尾叉長、図2、A)と背びれの長さ(第1背びれ第1~第9棘基底長、図2、B)の比で判別できます(詳細は漁況情報No.7参照)。この判別方法によると、今回測定したサバはマサバ(判別指数12以上)が7割、ゴマサバが3割でした(図2、サバの図はCollette and Nauen(1983)を転載)。9月上旬(ほとんどがゴマサバ)に比べ、マサバの割合が増加していました。

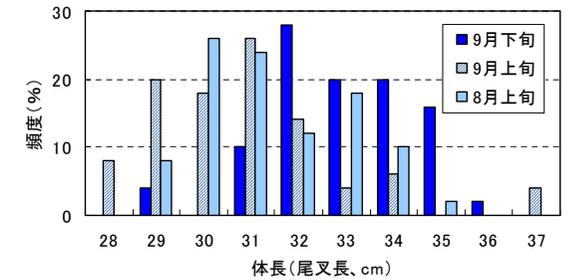


図1 サバ類体長組成

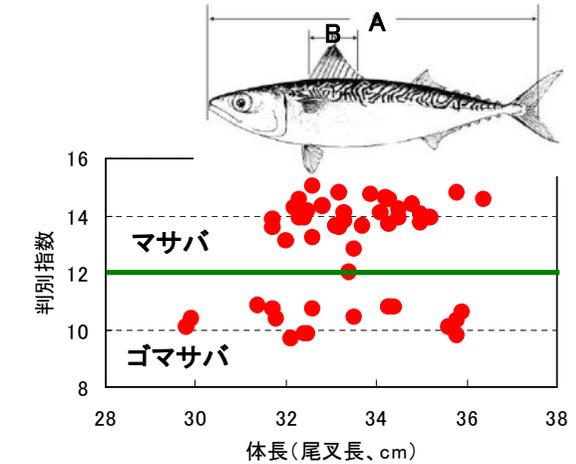


図2 マサバ、ゴマサバ判別指数

(2) ショッコ(ブリ幼魚)精密測定結果

9月下旬に釜石魚市場に水揚げされたショッコ(ブリ幼魚)の精密測定を行いました。

体長の主体は27~28cmで、8月下旬とほぼ同様の体長組成となりました。体長の範囲は20~35cmで体長にばらつきがみられました(図3)。

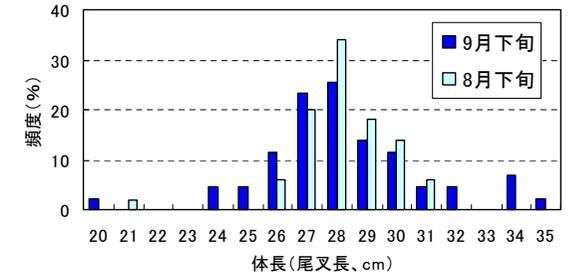


図3 ショッコ体長(尾叉長)組成

3. 調査船調査計画(10月)

	調査内容	調査期間
岩手丸	沿岸定線海洋観測調査	10/2~6、/30~31
	サンマ漁獲効率調査	10/10~20
	サンマ漁場調査・大型クラゲ調査	10/23~27
北上丸	イカ釣り調査	10/2~3
	仔稚魚・動物プランクトン調査	10/5~6、/23~24
	沿岸域水温観測調査	10/10~13
	カニカゴ、刺網調査	10/16~20
	タコ類カゴ標識調査	10/30~31